

鵜川・ピリカ・プロジェクト 美しい川宣言とアクションプラン

アクションプラン実施のめやす（点線は思い・計画時期）

早期取組：2～3年 ●

中期取組：5～6年 - - - ●

長期取組：概ね10年 - - - - ●

テーマ	目標		解説	アクションプラン	具体例	早期取組	中期	長期	
観光	ようこそ！ 本物の自然を体験できる鵜川へ	観光資源	ありのままの鵜川こそ観光資源	清流鵜川には、渡り鳥の中継地である河口干潟、黄色いじゅうたんのたんぼば群生地、紅葉がすばらしい福山渓谷、赤や青の巨石おりなす赤岩青巖の景勝地、美しい渓流の源流など豊富な自然環境とシシャモなどの豊かな生態系、シシャモカムイノミなどのアイヌ文化、カヌーやラフティングの自然体験など様々な観光資源があります。このような鵜川の魅力を伝えることができる人材も観光のための重要な資源です。ありのままの鵜川こそ観光資源であると考え、鵜川の魅力を流域住民が共有し、流域がひとつになって、この観光資源を守っていきます。また、観光の人材を育成し、鵜川の魅力をより多くの人たちに知ってもらえるように努めます。	・観光資源の発掘	・鵜川遺産の認定（集計ランキング）			
		観光戦略	豊かな自然を体験できる鵜川観光	清流鵜川のすばらしさを流域内外の人知ってもらうために、鵜川流域の自然や産業を活かした体験型の観光を推進します。鵜川の観光資源である清流や豊かな自然、食材、文化を前面に押し出し、カヌーやラフティングなどをとおして、子供たちが豊かな自然を体験できる鵜川の観光を目指します。	・体験型観光ツアーの企画	・鵜川日帰り観光ルートの企画	●		
教育文化	アイヌ精神と川育がはぐくむ鵜川	教育	自然・文化・歴史を川から学ぶ川育	鵜川には、渡舟場、流送といった歴史や、川と密接に関わったアイヌ文化、多様な生態系を有する豊かな自然など、子供達の学習素材が豊富にあります。子供達が、このような素材と触れあい、実際に体験することで、鵜川流域のすばらしさを実感でき、自然、文化、歴史を保全や伝承していくための良い経験となります。その経験は将来の鵜川を形成していくために、かけがいのないものになるのではないかと考えます。そこで、子供達が自然、文化、歴史などを川から学ぶ「川育」の推進に努めていきます。	・川育の学習プログラム	・「親子の川探検」の開催	●		
		アイヌ文化	アイヌ民族の精神文化を共有し未来に伝承される川	鵜川流域にも、アイヌ語にまつわる地名やシシャモカムイノミといった川と密接にかかわった鵜川特有のアイヌ文化があります。このような鵜川特有のアイヌ文化を子供の体験活動や交流活動とおして、流域全体で共有し、アイヌ民族の精神文化と誇りを次世代へ伝承していくことに努めます。	・アイヌ文化体験	・身近なアイヌ語探索講座の開催	●		
環境	母なる清流鵜川	水環境	命を育む日本一の清流	鵜川は1級河川水質ランキングで全国1位（平成17、18年）にランキングするような全国でも有数の清流です。この清流鵜川はシシャモ、サケ、米、野菜、メロン、肉牛といった鵜川流域の特産品を生み出し、人間は鵜川から恩恵を受けていますが、近年、なかなか濁りがとれない、河川水位の低下、海岸浸食による河口干潟の減少といった状況が発生しています。そこで森・川・海を一体で守り、命を育む日本一の清流でありつづけるよう流域住民が力を合わせていきます。	・清流の保全	・河川清掃の実施	●		
		生態系	多様な生き物が生息できる川	鵜川流域には、サクラソウ、カタクリ、ミズバショウなどの植物、シシャモ、サケなどの魚類、オジロワシ、オオワシなどの鳥類、ニホンザリガニ、エソサンショウウオなど多様な生き物が生息しています。また、鵜川河口には人工干潟があり、シギ、チドリなどの渡り鳥の中継地として重要な役割を果たしています。このような多様な生き物が生息できる川を人の手により保全し、生き物と触れあう感動を子供達へ伝えていきます。	・生態系の保全	・鵜川の生物生息マップ作り	●		
		景観	四季折々の美しさを実感できる川	鵜川流域は、エゾヤマザクラ、タンポポ、新緑の森や田圃、あざやかな紅葉、樹氷やダイヤモンドダストなど色とりどりの四季の姿があり、鵜川の青き水の流れの中で美しい景観を呈しています。そのような四季折々の景観は、心の安らぎと感動を与えるものです。そこで、四季折々の美しさを実感できる鵜川の永久(とわ)の流れを自然のままに保全していきます。さらに、鵜川はシシャモ伝説が生まれたところなので、河川敷にはいっぱい柳の木や、豊かな自然の中で子供達が無邪気に遊ぶ姿を見ることができるといいます。	・美しい景観の保全	・河川清掃の実施	●		
		川づくり方針	人と自然が共生できる川づくり	鵜川には清流の恵みを得て、様々な生物が生息し、シシャモといった地域を代表する特産品もあります。一方で過去に大きな災害に見舞われ、今後の洪水被害をなくすために河川整備を必要としています。今後の川づくりを行うに当たっては、洪水被害を軽減することはもとより、ふるさとの川を実感でき、子供、恋人、お年寄りが手と手をつないで歩けるような川、人間と自然が共生できることを目指し、人の川への想いを未来までつなげる川づくりに努めます。	・自然に配慮した川づくり	・福祉、癒しの川づくり検討会			●
防災	安全・安心な鵜川	情報の伝達	防災情報が行き届く鵜川	関係機関は災害の予測や状況を共有して、適切な判断を行い、正確な情報を住民へ迅速に提供できる体制をつくります。住民への伝達は防災行政無線などのあらゆる情報伝達手段を用いて、全住民へ伝達できるように努めます。地域では自主防災組織を結成して、地域ネットワークを構築し、日頃の防災意識の向上や高齢者などの要支援者の把握と地域連携の体制を整えます。災害時には自主防災組織が中心となって、関係機関と地域の情報を共有するための懸け橋となります。	・情報の共有化	・災害時ご近所連絡網の整備		●	
		避難	災害をよく知り、ともに助け合う鵜川	過去に災害が発生した時の降雨や河川水位状況と被災した地区とその状況といった過去の災害事例の教訓を活かし、日頃から地域における危険箇所、避難経路、避難場所の把握といった防災訓練を行います。過去の事例から災害の発生が予想される場合には、自主防災組織が中心となって地域内で共に助け合いながら自主的に避難するなど、人命が最優先という意識をもって行動します。	・人命が最優先	・日頃から備える地域防災講習会	●		
		防災対策	災害に強い人づくり・川づくり	地球温暖化の影響により、今後集中豪雨が多発し、災害リスクが増大することが予想されています。そこで、河川整備などのハード的対策と防災教育などのソフト的対策を並行して実施する必要があります。ハード的対策として、鵜川の良好な自然環境に配慮しながら災害に強い川づくりを実施し、災害リスクの軽減に努めます。ソフト的対策として、内水氾濫にも対応したハザードマップの整備と活用、子供への防災教育により将来の地域リーダーを育成、防災訓練の実施、日頃の情報共有など、行政が中心となって防災体制の構築に努めます。	・防災教育の実施	・避難所運営体験会（炊き出しの体験）		●	

観光資源

<案>

ありのままの鵜川こそ観光資源

清流鵜川には、渡り鳥の中継地である河口干潟、黄色いじゅうたんのたんぼぼ群生地、紅葉がすばらしい福山溪谷、赤や青の巨石おりなす赤岩青巖峽の景勝地、美しい溪流の源流など豊富な**自然環境**と**シシャモ**などの豊かな生態系、シシャモカムイノミなどの**アイヌ文化**、カヌーやラフティングの**自然**体験など様々な観光資源があります。

このような鵜川の魅力を伝えることができる**人材**も観光のための重要な資源です。

ありのままの鵜川こそ観光資源であると考え、鵜川の魅力を流域住民が共有し、流域がひとつになって、この観光資源を守っていきます。

また、観光の人材を育成し、鵜川の魅力をより多くの人たちに知ってもらえるように努めます。

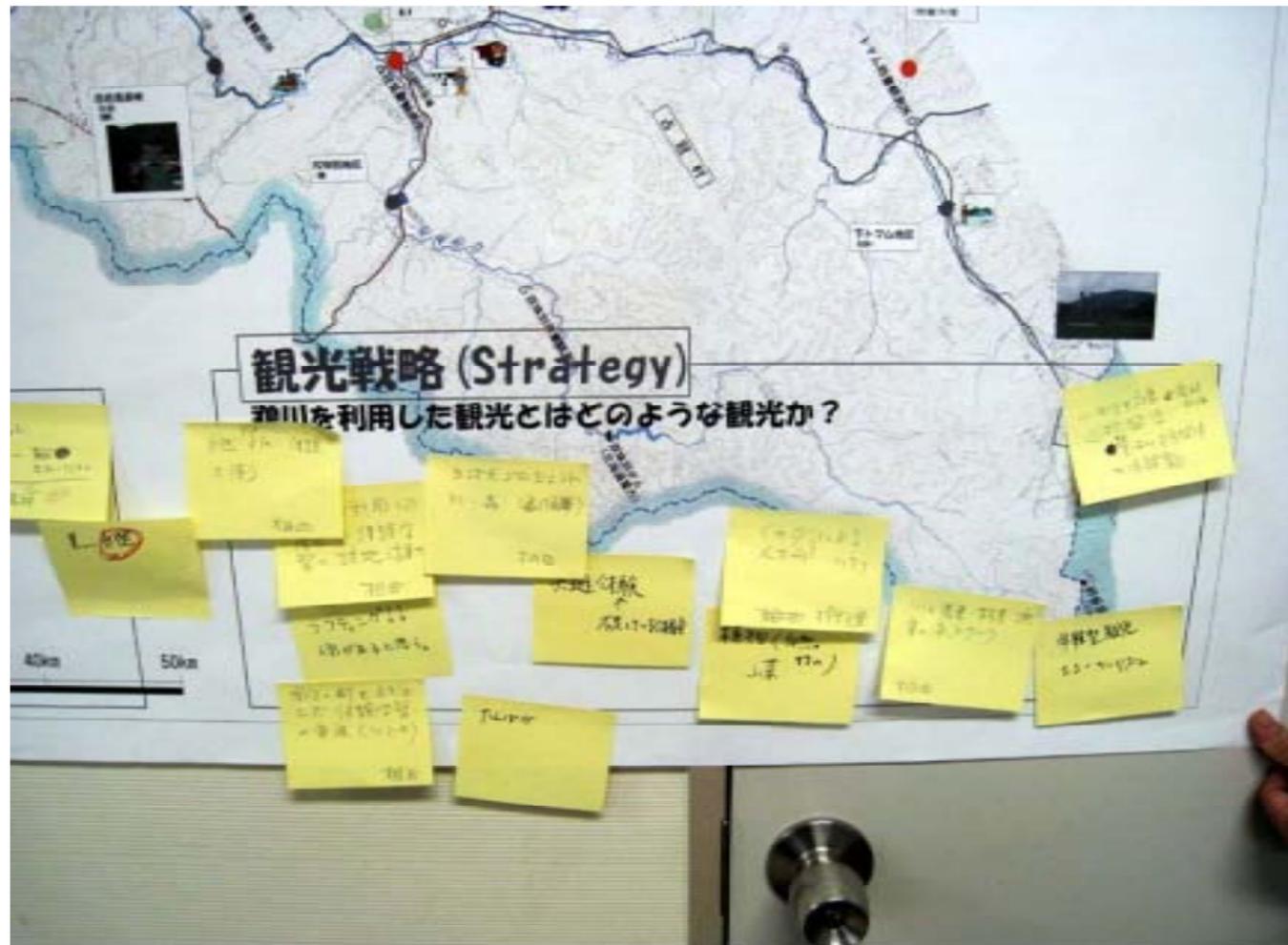


	氏名	内容	意見のキーワード
付	相田	森・川・海 (結びつけて考える)	清流 (きれいな水) 自然 、 シシャモ 、 アイヌ文化
付	相田	清流保全 (親しめるような川にする)	
付	富樫	清流 、 自然 (森・鳥・虫 etc)、 ししゃも 、 アイヌ文化	
付	富樫	魚・虫・鳥・植物 (自然 が身近)	
付	松永	ししゃも 、 日本一きれいな水 (鵜川をPRできる一番いい言葉) そのためには森林の整備と植樹が必要	
付	富樫	美しい自然	
議	松永	文化伝承 、 自然体験指導 ができる人々も 観光資源	人材

メモ欄(ご自由に記載して下さい)

清流鵜川のすばらしさを流域内外の人に知ってもらうために、鵜川流域の**自然**や**産業**を活かした**体験**型の観光を推し進めます。

鵜川の観光資源である清流や豊かな**自然**、食材、文化を前面に押し出し、カヌーやラフティングなどとおして、**子供たちが豊かな自然を体験できる鵜川の観光を目指します。**



	氏名	内容	意見のキーワード
付	相田	自然・アイヌ文化の 体験 を使う	体験
付	相田	廃校を利用した滞在型 体験 学習の誘致活動	
付	押野朱	ラフティング！！人気があると思う	
付	相田	周辺の町を巻き込んだ川での 体験 学習の実施	
付	富樫	共遊 体験 不足している 体験 (鵜川には自然の中で子供たちが共に遊べる環境がある)	
付	押野里	イカダ、丸木舟による川下り	自然
付	松永	小中学生対象、山村留学 廃校利用「夏休み期間中の 体験 型」	
付	富樫	体験 型観光エコツーリズム	
付	相田	3次元プロジェクト 川・森・海(海岸) (子供たちが1箇所ですべての遊びができるメニュー作り)	産業
付	富樫	自然 のままの植物、山菜(身近な資源の利用)	
付	相田	川と農業・林業・漁業のネットワーク	

メモ欄(ご自由に記載して下さい)

教育

<案>

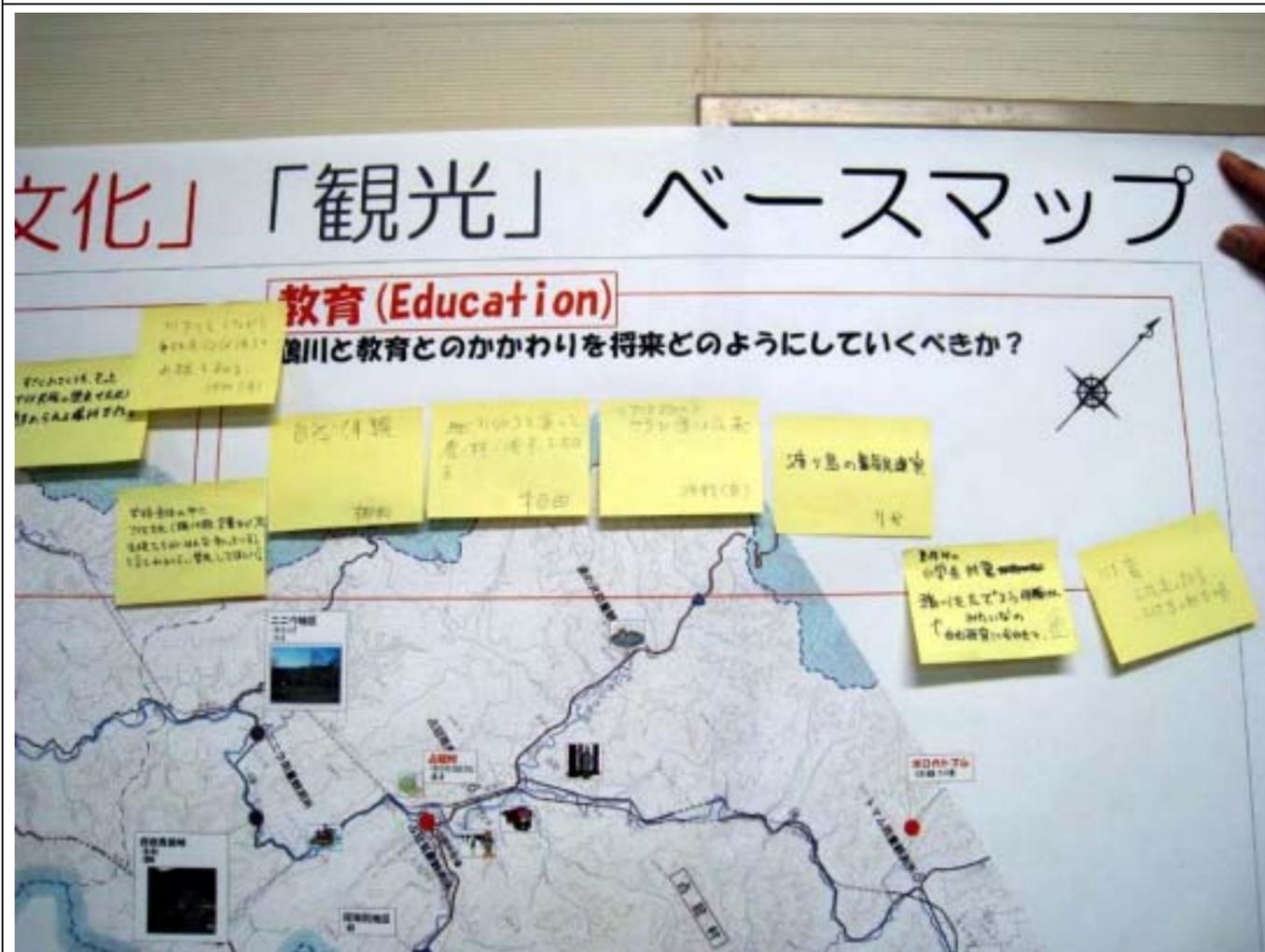
自然、文化、歴史などを川から学ぶ川育

鵜川には、渡舟場、流送といった歴史や、川と密接に関わった**アイヌ文化**、多様な生態系を有する豊かな自然など、子供達の学習素材が豊富にあります。

子供達が、このような素材と触れあい、実際に**体験**することで、鵜川流域のすばらしさを実感でき、自然、文化、歴史を保全や**伝承**していくための良い経験となります。

その経験は将来の鵜川を形成していくために、かけがいのないものになるのではないかと考えます。

そこで、**子供達が自然、文化、歴史などを川から学ぶ「川育」**の推進に努めていきます。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	押野里	学校全体の中に アイヌ文化 (踊りや歌、言葉など)を生徒たちがみんな知っている!と言えるくらい普及してほしい	アイヌ文化の体験と伝承
付	押野里	ワラジ造り(アイヌ文化)の伝承	
付	相田	自然体験 (自然から学ぶものがある)	体験
付	相田	川(水)を通して農・林・漁業を知る	
付	押野里	渡り鳥の観察	
付	押野里	夏休みの小学生対象、鵜川をたどろう 体験 みたいな。自由研究にあわせて	
付	富樫	川育 。子供達の教育。子供達の社交場	川育

メモ欄(ご自由に記載して下さい)

アイヌ文化

<案>

アイヌ民族の精神文化を共有し未来に伝承される川

鶴川流域にも、**アイヌ語にまつわる地名**やシシャモカムイノミといった**川と密接にかかわった鶴川特有のアイヌ文化**があります。

このような鶴川特有のアイヌ文化を子供の体験活動や交流活動をとおして、流域全体で**共有し、アイヌ民族の精神文化と誇りを次世代へ伝承していくことに努めます。**



	氏名	内容	意見のキーワード
付	押野里	アイヌ民族と川は昔から共存していたと思う。	川とアイヌ文化
付	押野朱	すごく小さくても、もっとアイヌ民族の歴史や文化に触れられる場所を作る	
付	押野里	アイヌ文化・歴史の 伝承	伝承
付	富樫	地名 (アイヌ語) (アイヌ語の地名の意味をひもといていく)	アイヌ語の地名
付	押野朱	川下りをしながら 地名 (アイヌ語) の由縁を知る	共有
議	押野里	鶴川に住んでいる人にはアイヌ文化を知ってもらいたい	

メモ欄 (ご自由に記載して下さい)

水環境

<案>

命を育む日本一の清流

鶴川は1級河川水質ランキングで全国1位(平成17、18年)にランキングするような全国でも有数の清流です。

この清流鶴川はシシャモ、サケ、米、野菜、メロン、肉牛といった鶴川流域の特産品を生み出し、人間は鶴川から恩恵を受けていますが、近年、なかなか濁りがとれない、河川水位の低下、海岸浸食による河口干潟の減少といった状況が発生しています。

そこで、森・川・海を一体で守り、命を育む日本一の清流でありつづけるように流域住民が力を合わせていきます。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	小山内	鶴川の河口干潟を未来へ	川からの恩恵
付	小山内	小河川の川らしさを守る (川で遊んだり、親しみやすい鶴川の支川を守りたい)	
付	石田	田畑を潤す鶴川の水 (むかわの田畑は鶴川の水から恩恵を受けている)	清流
付	小林	ゴミ ダメ! (ごみを一切放棄しない取組み)	
付	小山内	山の木々を守り水質を守る (山がはげていたら泥水が出る)	
付	中井	澄んだ水 (清流日本一を維持できる川)	
付	中井	水の器づくり (水がきれいになるためには、水が流れる器(森や支川や海)づくりから必要)	

メモ欄(ご自由に記載して下さい)

生態系

<案>

多様な生き物が生息できる川

鵜川流域には、サクラソウ、カタクリ、ミズバショウなどの植物、シシャモ、サケなどの魚類、オジロワシ、オオワシなどの鳥類、ニホンザリガニ、エゾサンショウウオなど多様な**生き物**が生息しています。

また、鵜川河口には人工干潟があり、シギ、チドリなどの渡り鳥の中継地として重要な役割を果たしています。

このような多様な生き物が生息できる川を**人の手**により保全し、生き物と触れあう感動を子供達へ伝えていきます。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	石田	森林の栄養分が豊富な川に (森林を大事にしなければならない)	生き物
付	中井	森・川・海は一体 (一つにつながっている)	
付	中井	生きとし生けるものにやさしい川づくり	
付	小山内	渡り鳥の行き来する水辺 (鵜川は、渡り鳥にとって重要な地域)	
付	小山内	鵜川にとっての外来種はらない (もともとあったものを大事にしてほしい)	
付	小山内	人もあらゆる生き物も育つ川 (生物の多様性)	人の手
付	小林	人の手 (人間が手を加えていかなければ、自然が守れないこともある)	
付	小林	子どもの時に (生き物と触れあった思い出)	

メモ欄 (ご自由に記載して下さい)

景観

<案>

四季折々の美しさを実感できる川

鷓川流域は、エゾヤマザクラ、タンポポ、新緑の森や**田園**、あざやかな紅葉、樹氷やダイヤモンドダストなど色とりどりの**四季**の姿があり、鷓川の青き水の流れの中で美しい景観を呈しています。

そのような四季折々の景観は、心の安らぎと感動を与えるものです。

そこで、**四季折々の美しさを実感できる鷓川の永久の流れを自然のままに保全していきます。**

さらには、鷓川は**シシャモ伝説**が生まれたところなので、河川敷にはいっぱい**柳**の木や、豊かな自然の中で**子供達**が無邪気に遊ぶ姿を見ることができる鷓川としていきます。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	小山内	柳の木がいっぱい生えて欲しい (シシャモ伝説はわたしたちの誇り)	シシャモ伝説 柳
付	石田	美しき土手づくり (シシャモ伝説のある鷓川の土手にはヤナギやサクラの並木が欲しい)	
付	小林	色とりどり (四季の美しさ)	四季
付	中井	自然のままに (今ある姿のまま守る)	自然
付	中井	森と田園、海全てが鷓川の流れの中で美しい景観を呈している	
付	小山内	とうとうと 田園 に流れる鷓川 (山と 田園 のロケーションがむかわの素敵などころ)	田園
付	石田	頭首工の青き水がいつでも満々としている川 (いつも水が清く青く澄み、 田園 や畑を潤す川に)	
付	小山内	景観の中に走り回る 子供達 がいて欲しい	子供達

メモ欄(ご自由に記載して下さい)

川づくり方針

<案>

人と自然が共生できる川づくり

鵜川には清流の恵みを得て、様々な生物が生息し、**シシャモ**といった地域を代表する特産品もあります。

一方で過去に大きな災害に見舞われ、今後の洪水被害をなくすために河川整備を必要としています。

今後の川づくりを行うに当たっては、洪水被害を軽減することはもとより、**ふるさと**の川を実感でき、子供、恋人、お年寄りが**手と手**をつないで歩けるような川、**人間と自然が共生**できることを目指し、人の**川への想い**を未来までつなげる川づくりに努めます。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	中井	柳葉魚 が生息できる川づくり	シシャモ
付	小山内	ししゃもも鳥も人も育つ川 (みんなが幸せなら私も幸せ)	自然との共生
付	中井	人と自然が共生 できる川づくり (バランス感)	
付	中井	いやしと福祉 の川づくり (精神が浄化される川、年寄りの参加で健康づくり)	
付	小山内	いつまでも変わらない ふるさと の川 (里山づくり)	ふるさと
付	中井	多自然型 川づくり	
付	小林	手と手 (人と人が手をつないで歩ける環境の川へ) (未来につなげるためには手をつないでいかなければならない (協力、次世代へのバトンタッチ))	手と手
付	石田	人は常に川の恩恵を受けている。川も人の想いの中で流れている。川は生きている	川への想い
付	小山内	川に想いを寄せる 人がいる川	

メモ欄(ご自由に記載して下さい)

情報の伝達

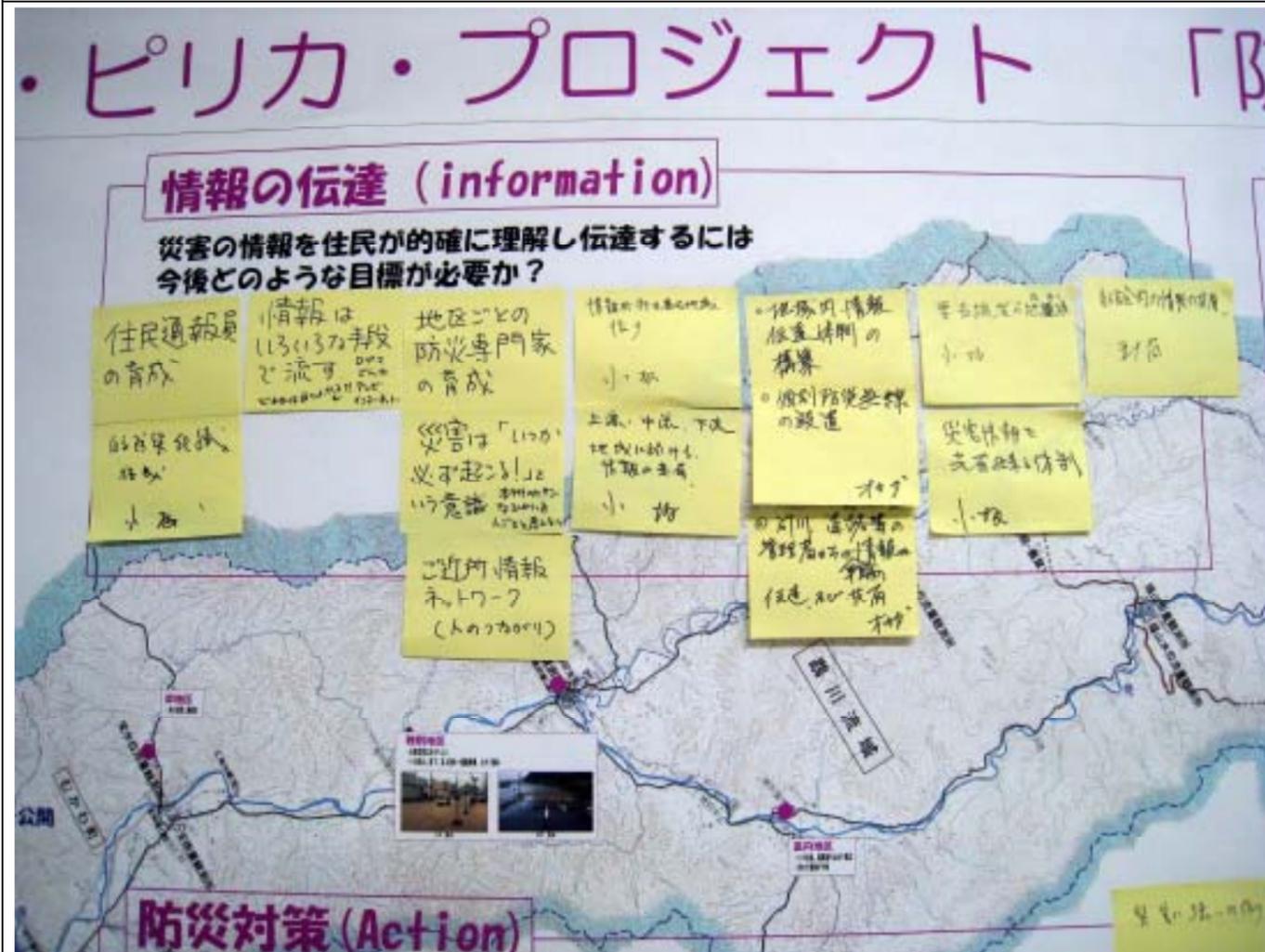
<案>

防災情報が行き届く鵜川

関係機関は災害の予測や状況を共有して、適切な判断を行い、正確な情報を住民へ迅速に提供できる体制をつくります。

住民への伝達は防災行政無線などのあらゆる情報伝達手段を用いて、全住民へ伝達できるように努めます。

地域では自主防災組織を結成して、地域ネットワークを構築し、日頃の防災意識の向上や高齢者などの要支援者の把握と地域連携の体制を整えます。災害時には自主防災組織が中心となって、関係機関と地域の情報を共有するための懸け橋となるように努めます。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	巖倉	住民通報員の育成	自主防災組織
付	小坂	自主防災組織結成	
付	巖倉	地区ごとの防災専門家の育成	
付	巖倉	ご近所情報ネットワーク(人のつながり)	地域のネットワーク
付	小坂	情報が行き届く地域作り	
付	岡田	地域内情報伝達体制の構築	
付	五十嵐	自治会内の情報の共有	
付	小坂	要支援者の把握	情報伝達手段
付	巖倉	情報はいろいろな手段で流す。口づて、電話、テレビ、インターネット どれかは目にふれる	
付	岡田	個別防災無線の設置	
議	小坂	情報を正しく住民に伝える方法	共有
付	岡田	河川、道路等の管理者からの早期の情報伝達及び共有	
付	小坂	上流、中流、下流地域における情報の共有	防災意識
付	小坂	災害情報を共有できる体制	
付	巖倉	災害は「いつか必ず起こる！」という意識。本州の悲惨な被害を人ごとと思わない。	

メモ欄(ご自由に記載して下さい)

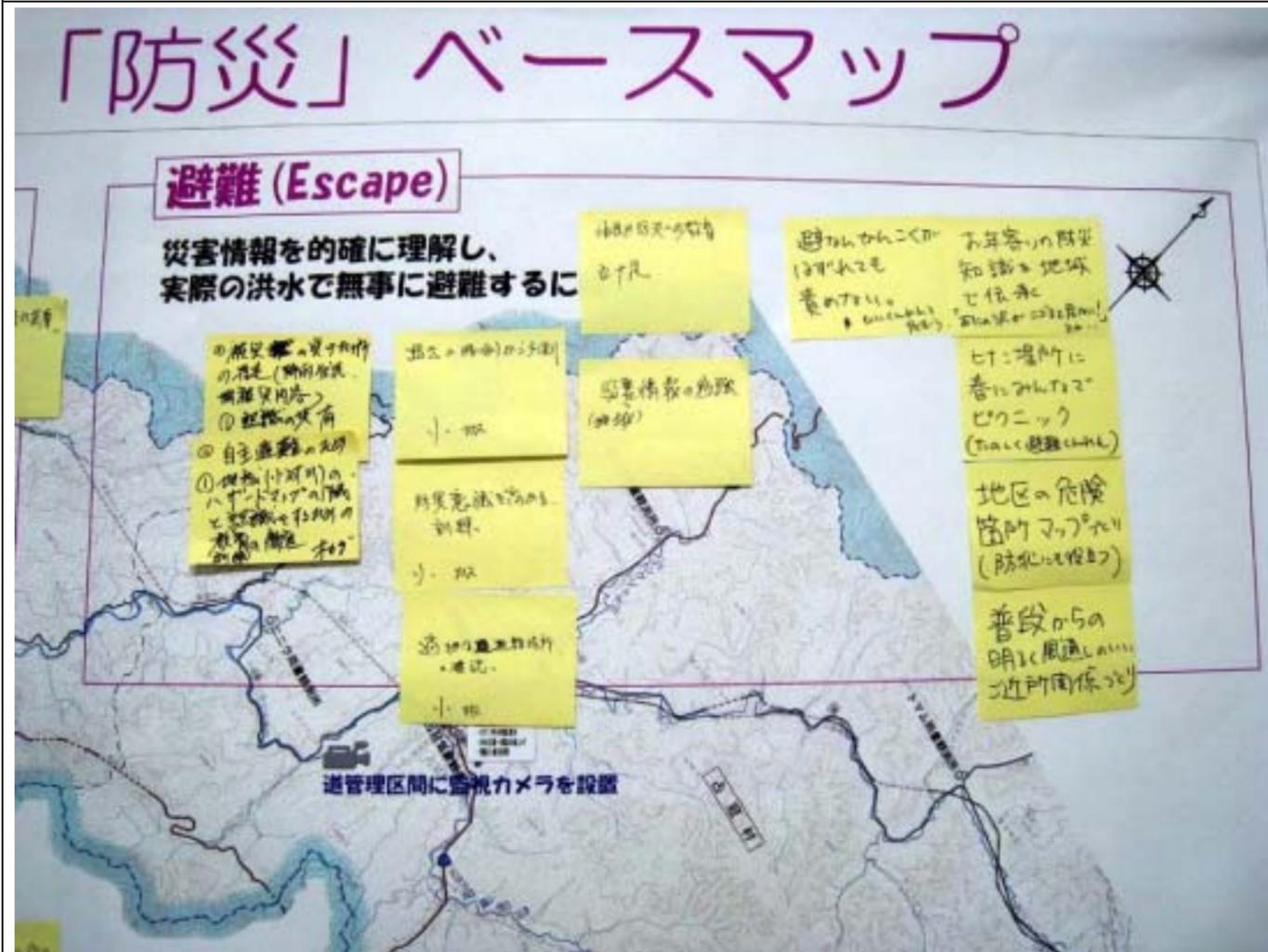
避難

<案>

災害をよく知り、ともに助け合う鶴川

過去に災害が発生した時の降雨や河川水位状況と被災した地区とその状況といった**過去の災害事例**の教訓を活かし、日頃から地域における危険箇所、避難経路、避難場所の把握といった**防災訓練**を行います。

過去の事例から災害の発生が予想される場合には、**自主防災組織が中心となって地域内で共に助け合いながら自主的に避難するなど、人命が最優先**という意識をもって行動します。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	岡田	被災の受けた所の特定 (降雨状況、被災内容) 認識の共有	過去の災害事例
付	小坂	過去の事例から予測	
付	松田	災害情報の勉強 (地域)	
付	巖倉	お年寄りの防災知識を地域で伝承「あそこの沢が濁ると危ない!」とか	
付	巖倉	地区の危険箇所マップづくり (防犯にも役立つ)	日頃の防災訓練
付	岡田	自主避難のため、地域 (小河川) のハザードマップの作成と認識をするための 教育訓練 の徹底	
付	小坂	防災意識を高める訓練	
付	小坂	適切な避難場所の確認	
付	五十嵐	住民への 防災教育	
付	巖倉	避難場所に春にみんなでピクニック (楽しく避難訓練)	
付	巖倉	避難勧告が外れても責めない。いい訓練と思おう。	人命が最優先
付	巖倉	普段からの明るく風通しのいい近所関係づくり	

メモ欄 (ご自由に記載して下さい)

防災対策

<案>

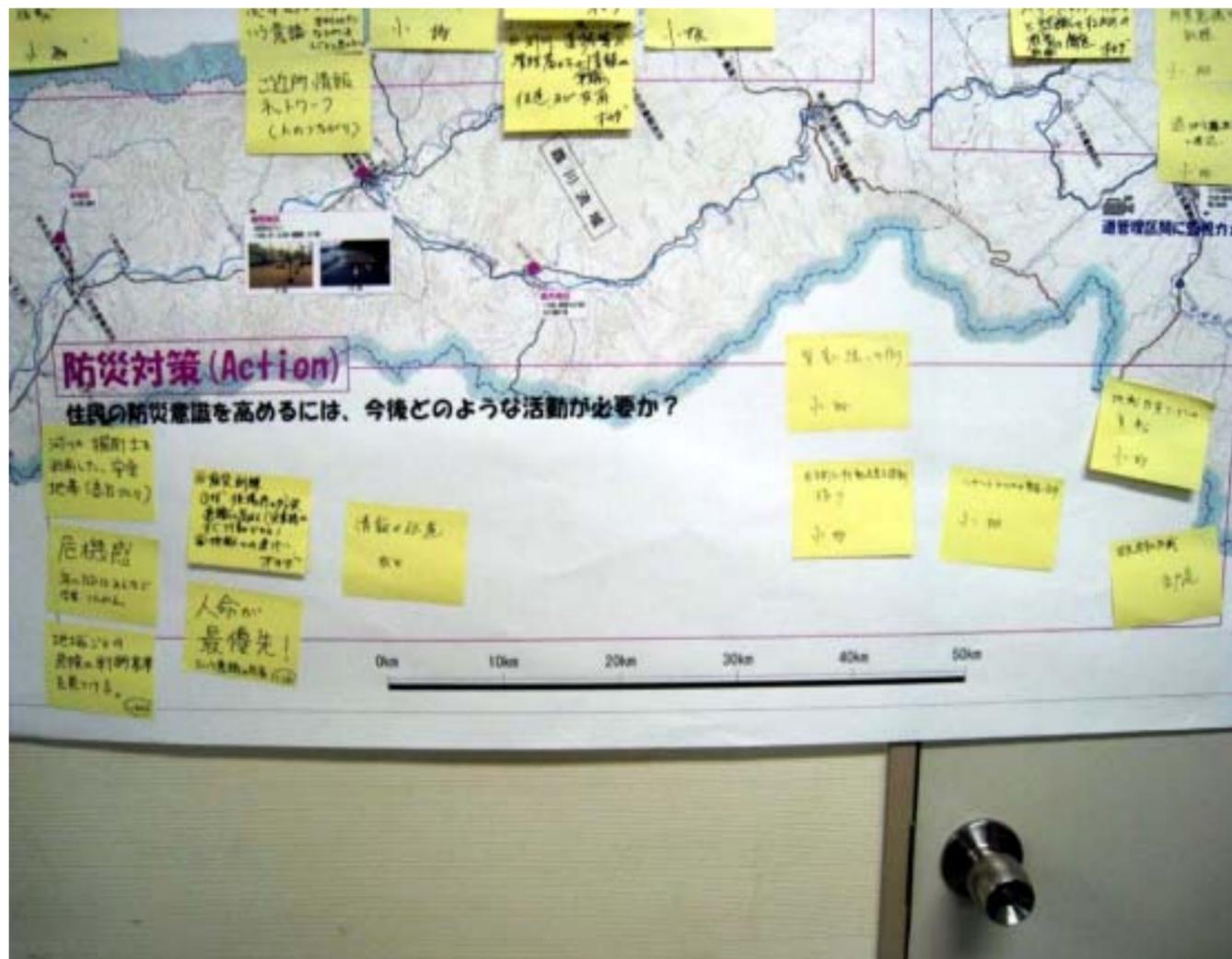
災害に強い人づくり・川づくり

地球温暖化の影響により、今後集中豪雨が多発し、災害リスクが増大することが予想されています。

そこで、河川整備などのハード的対策と**防災教育**などのソフト的な対策を並行して実施する必要があります。

ハード的な対策として、**鶴川の良好な自然環境に配慮しながら災害に強い川づくりを実施し、災害リスクの軽減に努めます。**

ソフト的な対策として、内水氾濫にも対応したハザードマップの整備と活用、子供への防災教育により将来の地域リーダーを育成、防災訓練の実施、日頃の**情報共有**など、行政が中心となって**防災体制**の構築に努めます。



	氏名	内容	意見のキーワード
付	巖倉	河川の掘削土を利用した安全地帯（高台づくり）	川づくり
付	小坂	災害に強い川づくり	
付	巖倉	危機感。年に1回はみんなで学習、訓練	防災教育
付	巖倉	地域ごとの危険の判断基準を見つける。	
付	小坂	自主的に行動できる体制づくり	
付	巖倉	人命が最優先！という意識の共有	
付	岡田	防災訓練。まず役場内の防災意識を高める（災害時にすぐ行動できる）	
付	小坂	ハザードマップの整備・活用	
付	五十嵐	官民共有の知識	
付	岡田	地域との連携	情報共有
付	小坂	地域防災リーダーの育成	
付	松田	情報の伝達	
議	小坂	行政が中心となった体制づくり	防災体制

メモ欄（ご自由に記載して下さい）